

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年7月30日から平成30年11月26日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B18014、B18015、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年10月現在）

事業所名： (施設名) 長野市豊野さつき保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 70名（58名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和50年4月1日
経営主体： 長野市	
所在地：〒389-1106 長野県長野市豊野町石2235-1	
電話番号： 026-257-2486	FAX番号： 026-257-2486
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員： 9名 非常勤職員： 15名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・保育主任 1名
施設・設備 の概要	(設備等)
	・乳児室 … 1室 ・保育室 … 3室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 1室
	(屋外遊具) ・1間鉄棒 } 何れも今年度撤去予定 ・波型ラダー }

3 理念・基本方針

<p>長野市が目指す子どもの姿 (長野市乳幼児期の教育・保育の指針より)</p> <p>かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しののキッズ</p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して 友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p>

【教育・保育の基本方針】

- 健康な心と体を育てる
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う
- 感じて、考えて、チャレンジする力を育てる
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる
- 自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。
- 人との関わりを大事にする教育・保育の実践
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考え受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践
- 家庭や地域との連携
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て支援を行います
- 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

○豊野さつき保育園 保育方針

- ・子どもの気持ちと育ちを大切にします。
- ・自然、人、ものに関わることを大切にします。
- ・保護者に寄り添い、子育てを支えます。
- ・地域の保育園として、子育て支援や世代間交流を行います。

○豊野さつき保育園 保育目標

～みんな仲良く、いっしょに大きくなろう～

- ・自然に触れて遊ぶ子ども
- ・思いを伝え合う子ども
- ・食事を楽しむ子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当豊野さつき保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、平成17年1月に旧豊野町が長野市に合併されて以降、長野市が運営している。

当保育園は、現在園のある豊野町石区に昭和43年4月児童館として開設され、昭和50年4月旧豊野町立さつき保育園として開設され、80名～95名の園児が通っていたという。その後、旧豊野町と長野市の合併により、長野市の一保育園として引き継がれている。

長野市豊野町石地区は北国街道が長野市徳間から分かれ北上する飯山道(現在、県道399号線)に沿った地域で、長野市街地の北方向に位置し、一帯はりんご畑やブドウ畑が広がり、自然が豊かで、かつ、2kmの範囲には北陸新幹線(長野新幹線)の車両基地があり、子どもたちの散歩や遊びのフィールドも広い。当保育園は県道399号線とそのバイパスとの交差点にあり、なだらかな丘陵の一段高い場所にあり志賀高原などの北信濃の山々も一望でき、平成27年10月13日長野市の公立保育園

として初めて「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在4年目に入っている。「信州型自然保育(信州やまほいく)」とは「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育で、現在、認定団体数185(平成30年11月現在)に及んでいる。当保育園のフィールドマップ(自然保育マップ)には原っぱや神社、里山、線路(JR飯山線)の道、ドジョウのいる田んぼ、赤地蔵、ヤギの家などがマークされ写真なども貼られており、雨の日も合羽を着て散歩をするなど、四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な社会体験や生活体験をしている。

こうした中、子ども達の居住区である豊野町南郷地区、石地区、豊野地区でも高齢化が進み、また、核家族化も進んでおり、最近では保護者の勤務の都合で出退勤時の利便性の点で地区外から当保育園を選ぶ保護者も増えているという。当保育園の近くには園の多くの子どもたちが就学する豊野西小学校があり、年長の子どもたちはその小学校の1年生や5年生と交流すると共に、ほぼ同じ小学校区内にある、現在、長野市が運営を委託している豊野みなみ保育園とも定期的に交流している。更に、近くには日帰り温泉施設「りんごの湯」もあり、源泉かけ流しの温泉は、地域の人々に親しまれ、直売所なども併設されており、これらも子どもたちの散歩コースに組み込まれている。

現在、当園には0歳児2名・1歳児6名・2歳児6名のほし組(途中より2歳児6名は「つき組」として別室にて保育)、3歳児5名・4歳児9名・5歳児8名のにじ組、3歳児5名・4歳児8名・5歳児9名のたいよう組の三つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度「全体的な計画(保育課程)」の四つの「保育方針」に掲げた「子どもの気持ちと育ちをたいせつにします」、「自然、人、ものと関わることを大切にします」、「保護者に寄り添い子育てをささえます」、「地域の保育園として、子育て支援や世代間交流を行います」等に沿い、「自然に触れて遊ぶ子ども」、「思いを伝えあう子ども」、「食事を楽しむ子ども」という当園の保育目標の実現に向けて、子ども達の生涯にわたる人格形成の基礎を培う保育に全職員がチームワーク良く取り組んでいる。

また、当園では仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、障害児保育、わんぱく広場等を実施している。長時間保育は時間外保育を必要とする際に利用するサービスで不定期ではあるが利用されている保護者がいる。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じて支援することができるが、現状、利用される方は少ない。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。わんぱく広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスでいつでも受け入れることができるようになっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、園庭遊具やプールフェンスの整備、4年目に入っている「信州やまほいく」の更なる拡充により再認定を目指すこと、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ること等を掲げ積極的に推進しており、職員も地域の豊かな自然や動植物などの環境を活かしつつ、育ちを確かにするための専門的な知識や技術に関わる研修に参加し、きめ細かな保育・教育に取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

◇特に良いと思う点
1) 異年齢保育(縦割り保育)や世代間交流を通じた人との関わり 当保育園では伝統的に異年齢でのクラス編成を継続しており、現在も3歳児5名・4歳児9名・

5歳児8名のじ組、3歳児5名・4歳児8名・5歳児9名のたいよう組という幼児の2クラスがあり、異年齢の子ども達が互いに関わりを深め、協同して遊ぶことにより自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと活動する楽しさや共通の目的を実現させるという喜びを味わっている。また、クラスは違いながらも、3歳以上児は年齢が分かるように日よけのついたカラー帽子を着帽しており、その色により年少児は「みどりチーム」、年中児は「あおチーム」、年長児は「ピンクチーム」として同年齢同士の横のつながりの活動もしている。

年齢の異なる子ども同士で遊ぶときには、みんなが楽しく遊ぶために、自然にルールや役割分担が生まれており、年下の子どもは年上の子どもの様子からルールや役割を学び、年上の子どもは年下の子どもをお世話しながら遊ぶという役割を果たしている。また、異年齢の子どもたちの関わりが続くなかで、誰もが成長とともに、お世話される側からお世話する側になるといった体験をしており、自分より年上の子どもの様子を見て学びながら、ゆっくりと人との関わり方を学ぶことができている。

更に、少子化や核家族化が進んだ現代では、このような異なる年齢の子ども同士で遊ぶ機会が減っているが、当保育園では地元石区や豊野町住民自治協議会などと積極的な連携を図り子どもたちが地域の社会で色々な体験ができるようにしている。「石区文化祭」で発表する体操曲CDや「石区秋祭り」の灯籠絵などの提供に協力しており、旧豊野町から継続している市民運動会にも参加し地域の人々と交流している。地域の方々の協力をいただき、園の行事へ参加や作業のお手伝いもいただく中で世代間交流も盛んに行い、家庭的な保育にも繋げている。子どもたちも自分たちの生活に関係の深い高齢者をはじめ地域の人々などとふれあい、自分の感情や意思を表しながら共に楽しみ共感しあうという体験の中から、大人と関わることの楽しさや他の人の役に立つ喜びを味わっている。

小規模保育園としての特徴を活かし、幼児が異年齢のクラスでそれぞれの関わりを持ち、助け合い、協力し、思いやりの心を育てており、職員も一人ひとりの子どもを把握し、家庭的な雰囲気の中で日々の保育を行っている。

2) 保護者との相互理解

当保育園では日常的に園長や主任が子どもたちの登降園時に門付近で出迎えたり見送りをしており、職員も子どもの様子を話しつつ、保護者が意見を言いやすいように配慮している。また、年2回の保護者総会や随時開催される保護者会役員会にも職員が参加し、未満児クラス懇談会や幼児学年懇談会などでも保護者の意向の把握に努めている。

更に「園だより」でも感染症情報や行事の情報を伝えるだけでなく、「長野市保育理念」「教育・保育の基本方針」を基にした「園の保育方針」や「園の保育目標」についても毎回触れて保護者に知っていただく機会を作っており、利用者アンケートでも「保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)を知っていますか」、「保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)には納得していますか」等という問いに対してかなり多くの保護者が「はい」と回答しており「保育目標・保育方針」については保護者に浸透していることが感じられ、当保育園の意図するところを保護者にも十分理解していただいている。

年2回の保護者アンケートも実施し、様々な意見や要望を収集できるようにしている。出された意見や要望、また、苦情は職員会で検討し、それらをあいまいにせず個人からの苦情には本人にフィードバックし、アンケートについては集計結果を全保護者へ配布し改善へと繋げている。また、苦情内容は「相談・意見・苦情受付記録」に記録の上5年間保存し、園内研修の機会などに事例としてあげ職員の資質向上にも役立てている。昨年度のアンケートで運動会時に立ち見が出てしまうことに関して意見が出され、今年度は園児席を工夫したり、日差しを避けるためにテントを張るなどの対策を行った結果、来場者には好評であったという。

日々の子どもたちの生活は家庭から保育園へ、保育園から家庭へと続いており、保護者と園との相互理解が子どもたちの安定的な保育には不可欠なものであると思われ、当保育園では「伝達と説明」という基本的なことを園長始め職員が徹底している。

3) 自然環境を活かした体験活動

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰ「『育ちを豊かにする』教育活動の推進」の「取組の方向性Ⅰ-1 自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信

州型自然保育認定園を増やす」の三つを掲げており、当保育園の目標でも「自然に触れて遊ぶ子ども」と掲げ、実践している。

当保育園は平成 27 年 10 月に長野市の公立保育園として初めて「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在 4 年目に入っている。自然とかかわる活動計画書を作成し保育計画にも取り入れており、近くの原っぱや里山、神社、寺院、田んぼなど、散歩の際のスポットを描いた自然保育マップが作られており、目的地の場所、特徴、注意を掲示して年齢やクラスごとに園外保育に出掛ける機会を多く取り入れ、子どもたちは楽しさとともに自然の不思議などを体感している。合羽を着て雨降りの中を散歩することもあり、秋の園外保育ではドングリ拾いも行い、どんぐりの中から出てきた虫も育てている。散歩の途中でリンゴ園で作業に勤しむ地域の方々から声をかけていただくこともあり、様々な地域の人々とも触れ合っている。

また、園庭には大きなもみの木が植えられ、木陰で遊ぶことができ、様々な季節の花や野菜(ミニトマト、ピーマン、オクラ、キュウリ、さつま芋、マコモダケなど)を植え、成長を感じながら育て、収穫体験もできるような環境を整えている。

当保育園の 2018 年度からの 3 年間の中期計画でも 2015 年度に認定を受けた「信州やまほいく」を 2020 年度に再認定を受けるとし、「自然保育を推進する」ことも掲げている。長野市公立保育園全体としても力を入れつつある自然保育という中で、健康な身体と体力を養いつつ、生命、自然についての興味や関心を育て、豊かな心情や思考力の芽生えを培っている。

4) 非常時の対応と備え

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅲ「『育ちを守る』教育・保育環境の充実の「取組の方向性Ⅲ-3 防災・防犯対策や交通安全対策の充実」の三つの具体策のうちの一つとして「水防計画などを作成し防災への備えを高めるとともに、教諭・保育士の防災・防犯意識の高揚を図るとともに、確実な避難誘導ができる行動力を身につける」と掲げており、平成 30 年度の当保育園事業計画でも「危機管理に関する取り組み」として上げ、職員が熱心に取り組んでいる。

当保育園の「危機管理マニュアル」の中に各種災害対応フローがあり、事務所や各クラスへ貼り出し、園舎東半分が土石流イエローゾーンにかかっているため、周辺の集会所や事務所との連絡体制も整備されている。非常時には「緊急連絡網」で職員の確認を行い、「緊急連絡分担」を基に子どもや保護者への連絡・確認を行っている。災害時の持ち出しリュックは、主任が「非常時持ち出し品」リストに従い、整備・管理しており、中には「災害時引き渡し確認表」も準備されている。非常時持ち出し品のリュックも各クラスや事務所などに複数用意し日頃から万が一に備えている。

当保育園では土砂災害・不審者対策などの訓練と火災・地震等の毎月の訓練で年間 14 回訓練を実施しており、給食職員による消火訓練も毎月実施している。管轄の消防署へは消防計画、避難訓練年間計画、自衛消防訓練通知書を提出し訓練を行い、特に開放的な環境の中、6 月には警察署に依頼し、不審者対応訓練を行うなど防犯対策についても職員間の連携を強化している。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 可能な事務処理の I T 化の推進

当保育園の事業計画に「働き方改善の取り組み」として掲げ、仕事と生活の両立という面から時間外労働の削減、休暇の計画的な取得などに取り組んでおり、育児や介護、療養休暇などの状況に応じて休暇が取得できるようになっている。福祉人材の確保、定着の観点から、休憩パート保育士の確保、育休取得時の代替保育士の配置等も行われている。

職員の有給休暇は代替職員で対応ができ、取りやすい状態にあるが、日々の保育準備、記録の作成などを時間内に行うことが難しいこともあるようである。

保育士の確保、ワーク・ライフ・バランスへの配慮という面では業務負担の軽減も一つの有効な対策になるのではないかと思われ、連絡帳や活動記録などのコミュニケーションをクラウド(インターネットなどのネットワーク経由でユーザーにサービスを提供する形態)上で行うなど、保育の現場においてもタイムリーなツールを使うことで、保護者や地域の人々との具体的な連携等、以前は難しいとされていたものが容易にできるようになってきていることから、業務効率化

の一環としてのIT(情報技術)化を検討されることを期待したい。

2) 保育スペースの更なる確保

市公立保育園としての「保育環境マニュアル」があり、職員は環境チェック項目を確認し快適に過ごせるよう配慮している。各クラスに温湿度計を設置し、エアコンや暖房器具で温度調節を行い、小まめに換気も行っており、チェック表を用いて毎月の安全点検、毎日の日常点検、食品衛生自主管理点検、寝具の衛生、トイレ、水周りの環境を整備・管理している。

園内研修も行い、園内での安全に配慮した家具や遊具を準備し、各クラスの遊具の配置・スペースなども工夫し、床に座ってくつろげるコーナーもあり、生活の場所と午睡の場所も分けており、心地良さが感じられるように環境を整えている。

園舎内の各保育室やホールの面積に限りがあるため、保育室の一部を教材室にしたり、活動の時間帯や子どもの成長に合わせスペースの有効活用もされているが、決まった経費枠の中でのやりくりという中で、可能であれば、園舎外に用具置き場、教材室などを設けられ、更に、使い易く、安全で、楽しい空間づくりをされることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年11月22日記載）

長野市公立保育園では10年以上前から「第三者評価内部委員会」を立ち上げ、各種マニュアルの整備や内部委員による“内部評価”を実施してきました。しかし、“内部評価”では評価項目の出来ていない点を見つけたり、内部委員自身の保育観で主観的に評価したりする傾向が強く、評価結果を保育の質の向上に結び付ける前に『評価』はマイナスなイメージを持つものになっていました。

ところが、今回、コスモプランニング様の第三者評価を受けて『評価』本来の目的を実感し、『評価』をプラスとして捉えることができました。特に評価結果総評の「特に良いと思う点」としてあげていただいた

1. 異年齢保育（縦割り保育）や世代間交流を通じた人との関わり
2. 保護者との相互理解
3. 自然環境を活かした体験活動
4. 非常時の対応と備え

については、職員一同が力を入れてきた事と一致したことが大きな自信となりました。公立保育園のため、毎年、職員の異動があるのですが、今後も“自園の強み”としてしっかり引き継いでいきたいと思っております

保護者の皆様には、お忙しい中で「説明会」へご出席いただくと共に、アンケートにもご協力いただき、貴重なご意見をありがとうございました。改善すべき事柄については職員全員で話し合い、最善策を実行いたします。

最後になりましたが、コスモプランニングの皆様の丁寧で温かい対応と、前向きになれる評価に感謝申し上げます。